

大きく深い山脈 南アルプスの最南端

南アルプス南部光岳 てかりだけ 森林生態系保護地域

設定目的

南アルプス最南端に位置する光岳てかりだけをはじめ、加加森山かがもりやま、中ノ尾根山なかのおしづまなど二〇〇〇メートルを超える一帯には、本州中部の太平洋側における山地帯から高山帯に至る植生の典型的な垂直分布が残されています。約一七〇〇メートルまでの区域には冷温帯の植生、約一七〇〇メートルより上部は亜寒帯の植生が分布し、最上部にはハイマツ群落の南限の高山帯や石灰岩地特有の植生も包括しています。

こうした生態系を保護・管理し、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に役立てるため、保護林として設定しています。

地況・林況

標高二〇〇〇メートルを超える山々に囲まれ、多くの沢が流れています。沢の流域は極めて急傾斜で、下部には浸食により生産された砂礫が堆積しています。また、周氷河地形が存在するのも特徴です。この周氷河地形は、光岳付近が南限とされるハイマツ群落との関連が深いといわれています。約一七〇〇メートルまでの区域は冷温帯の植生分布を示し、イヌブナ、ミスナラ等が見られます。

約一七〇〇メートルより上部は亜寒帯の植生を示し、コメツガ、ウラジロモミ等の針葉樹が自生します。

さらに尾根筋にかけてはシラビソ、オオシラビソが多く分布しています。

最上部の高山帯にはハイマツ群落及びアオチャセンシダ、イワウサギシダ等の石灰岩地特有の植生が分布しています。

シリーズ

中部の保護林(第3回)

所在地
長野県飯田市



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載していません。



本州南限のハイマツ帯



シラビソ群落

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、QRコードを読み込んでください。